

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 61 (年4回発行)

■発行日 平成23年10月31日
■発行 三春まちづくり協会
■編集 三春まちづくり協会広報部会
三春町字大町178 (旧公民館内)
TEL/FAX (62) 3988

特集!

「これからの協働のまちづくりをもとめて！」

—— 二期目を迎えた鈴木町長に聞く ——

去る九月十三日に公示された、任期満了に伴う三春町長選挙に立候補した鈴木義孝さんが三期連続無投票で町長に当選されました。三春まちづくり協会は、行政執行担当や議会との協働を念頭に事業活動を進めています。

今回の地方選挙で、行政や議会が新たな体制でスタートを切ることは、協会事業を進める上で少なからず関係することから、それぞれの今後の協働のまちづくりに対する考えをお聞きすることにしました。今号は、二期目を迎えた鈴木町長に「協働のまちづくりのあり方」についてお聞きしましたので、その内容を特集しました。なお、議会関係については次回以降の取り組みを計画しています。

〔編集の関係で、お話しの内容を要約していることもあります。〕

三期連続当選、おめでとうございます。鈴木町政三期目のスタートの所信については、「広報みはる」十月号に述べておられますが、「町民自治基本条例」にあります『協働のまちづくり』に関連していくつかお伺いします。

はじめに、三春まちづくり協議会、及びまちづくり協会活動について、協働の観点から今後どのような関わりと期待を考えておられるか、お聞かせ下さい。

【鈴木町長】 三春町のまちづくり協会活動は、「協働」そのものであります。各協会の部会活動も独自の計画の基に進められており、常に時代の流れを汲み取りながらの活動は、町民自治基本条例に則ったものと言えます。

今後の協会活動のあり方としては、高齢化社会を安心に暮らせるための活動が

あげられると思います。一人暮らしの高齢者世帯の方が、ゴミ出し、雪掃き、買い物等の日々の生活を送れる地域であることが大切です。



まちづくりの抱負を語る鈴木町長

次に、町民の健康づくり活動であります。まちづくり協会によっては、部会活動として取り入れられておりますが、まだ充分とは言えないと思います。町でも保健活動を行っておりますが、町民の意識高揚が図られるよう、まちづくり協会とも連携して取り組んで参りたいと思います。その他、東日本大震災や原発事故による放射線の除

染対策等、協働により取り組むべき課題は沢山ありますので、共に知恵を出していきましょう。



町民参加のまちづくりとして、具体的にどのような協働のあり方を考えておられるか、お聞かせ下さい。

◆ 町民の健康づくりを浸透する取り組みについて

【鈴木町長】 健康づくりは、「生活習慣」と「健康診断」が基本だと思います。生活習慣では一人ひとりが無理なく、できることから行うことだと思います。毎日歩

く、話す、食べるがバランスよく継続できれば、病気とは縁がないと思います。健康であっても、年齢を考えると定期的な健康診断は欠かせません。この基本を全体的に浸透させるには、正しい情報の提供と継続的な実践活動が必要です。この情報の提供と実践活動には協働の必要性を感じております。例えば、健康づくりを広げる場合の指導者や調整者、広報者が必要で

す。今までは、まちの保健師や健康づくり推進委員が行って来ましたが、これからは健康づくりサポーターなどの支援制度があれば、さらにきめ細かな健康づくりができると思います。住民健診でも、町からの通知だけでは受診しない方も周知の方から声がかかれば受診者は増えるのではと考えられます。人間の体に例えれば、骨や筋肉は行政で、これを円滑に動かす神経や血液の役割がまちづくり協会や健康づくり推進員だと思えます。これらをよく連携させることが協働の力ではないでしょうか。

◆ 新たな通年型観光のまちづくりを進める取り組みについて

【鈴木町長】 三春町の春の観光の象徴は、日本一の滝桜を始めとした町内一円の桜であります。これら滝桜の手入れや、町内各地の桜の植栽や管理は、各まちづくり協会、行政区、各団体

等と町行政の協働による取り組みを行った完成形だと思います。

また、夏から秋にかけては、アジサイやもみじでの名所づくりを目指し、城山公園やもみじ山公園の整備を行っております。これらの整備にあたっては、苗作りから植栽作業、草刈り作業まで、各まちづくり協会や各種団体の協力で毎年続けており、町民みなさんとの協働により進めております。

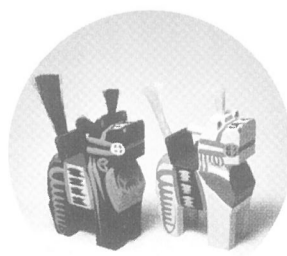
さらには、観光客の受入れについても観光協会や観光ボランティアとの協働によるものと思っております。各団体をはじめ、町民一人ひとりの協力を得ながら、観光客へのおもてなしを進め、協働による立派な観光地としたいと考えております。

◆ 協働の前提となる、情報共有化を進める取り組みについて

【鈴木町長】 町からの情報は、「広報みはる」や町ホームページ、防災行政無線などを通じて、随時行っております。

また、町民のみならず町への要望事項などについても、各担当窓口を通して、受けております。さらに、各まちづくり協会と町とで毎年実施している「まちづくり懇談会」においては、各行政区長さんを通じて取りまとめたいただいていた要望事項、さら

には町からの説明事項などについて、町民のみならず、議会・町が出席し、双方方向での話合いの場を設けております。これにより、相互の抱えている問題点の洗い出しや解決方法について共有することができていると考えております。



最後に、東電原発事故による放射線物質のさまざまな影響から、健康と暮らしに安全と安心を取り戻すため、どのような協働の取り組みが考えられるか、お聞かせください。

【鈴木町長】 放射線量の高低に関係なく、目に見えない放射線に不安を感じるのは当然であります。全ての人が被害を受けております。安全な三春町を取り戻すためには、全町的な放射線測定による実態の把握と、その上で、できる限りの除染対策を行うことが必要だと考えております。町では、玄侑宗久氏、東北大学などの支援を頂き

〔裏面へ続く〕



「実生プロジェクト」を立ち上げ、各方面からの支援等をいただきながら、数々の対応を進めております。例えば、妊婦や子どもたちへの線量計の配付、学習会の開催などであります。ほかにも、地区ごとの空間線量測定や土壌測定、食品等の放射性物質の測定の実施と学校、公園等の表土除去による除染を行っております。

また、通学路の除染対策を行政區長さんやまちづくり協会、PTAのみなさんと取り組むよう協議を進めているところですが、

一方、富岡町と葛尾村の応急仮設住宅が、町内に建設されており、地域のみなさんとの新たなコミュニティの形成が必要となって参りますので、引き続きご協力をお願いしたいと思います。

町民のみなさんと町が一体となって、安心して暮らせる町を取り戻し、よりよいまちづくりを進めてまいります。

鈴木町長には、公務多忙にもかかわらず、取材にご協力頂き誠にありがとうございました。

(以上)

三春まちづくり協会の活動について



三春まちづくり協会 永井 久
副会長

三春まちづくり協会が設立されたのは昭和五十七年のことでしたので、来年で設立三〇周年を迎えることとなります。

協会は六つの部会で組織され、それぞれの部会に設定されているテーマが協会活動を良く表していると思いますので、ここで紹介します。

①夢を持ち豊かな心が育つまちづくり(生涯学習部会)
②誰もが暮らしやすいまちづくり(環境部会)
③元気で健やかに暮らせるまちづくり(福祉部会)
④みんなが築くつながりのあるまちづくり(地域部会)
⑤地域の特徴と資源を生かした活力のあるまちづくり(街並部会)
⑥情報を共有し協働するまちづくり(広報部会)

こうしたテーマのもとに町と「協働」で豊かなまちづくりをめざして活動しているところですが、一口に協働といっても、まずお互いを良く知ることが大切ではないかと考えます。

そのために三春まちづくり協会では、町役場の皆さんの協力のもとに、毎月定例出前懇談会を開催してきました。先月までで四十一回を数えますが、テーマについては、なるべく全ての課の仕事について網羅するように考えて設定しています。

この出前懇談会に続けて参加していると、役場の仕組みや仕事の進め方、今の町の課題や、これからの展望などが良く分かるようになってきますので、ぜひ多くの町民の皆さんにも参加してもらいたいと思います。毎月の広報と一緒に、その月の出前懇談会のチラシが全戸配布されますので、興味のあるテーマのときだけでも、気軽にお出かけください。なお、十一月は年に一度の「まちづくり懇談会」です。町長、副町長、議長、教育長をはじめ各課長が全員出席されますので、町の現在の状況が良く分かると思います。

これからの三春まちづくり協会の課題として、①六つの部会の活動をもっと活発にしていこう。②町民の皆さんに協会の活動を知っていただくこと。③他のまちづくり協会との連携、協力を進めること。などが考えられます。

なかでも町内七つの協会による「まちづくり協議会」としての動きがこれから重要になってくるものと考えています。三月の震災、原発事故以来、環境・生活・産業などあらゆる面での大きな変化がありました。美しい故郷三春町を取り戻すために、いまこそ町民の力を結集して、これからのまちづくりを考え、行動するときだと考えます。

協会活動だより

生涯学習部会

三春まほらっこ教室の視察
副会長 村上俊朗

六月二十一日、三春小学校へまほらっこ教室を見学に行つて参りました。



まほらっこ教室は、オーブンスペースの教室をふたつ使用していて、子供たち

がボランティアの方達とゲームをしたり、七夕の折りつきりをしていました。折り返しも、これから真夏を迎えるにあたり、放射能の影響で窓も開けられずに学校生活をせねばならない子供たちや先生、教育現場も大変な事だと思いました。見学を終えて、職員室に戻る途中に階段を昇る階段を間違えたついでに校内を探検しました。古民家風に造作した教室があったり、畳が敷いてあつて茶室風にしてある生徒もいました。まちづくり協会から、扇風機の進呈をする事にいたしました。

福祉部会

健康づくり教室
副会長 田部敬子

福祉部会は、「町民だれでも元気で健やかに暮らせるまちづくり」をテーマに活動している。

健康づくり活動の一環として八月二十五日(木)保健センターにて、三春病院家庭医療科・井上みき先生の「検診で占うあなたの未来」と題した健康教室を開催した。

健康であることは、誰もが願っていることであり、健康を維持するためには、

編集後記

これまで、三春町の事をよく考えもしなかった。まちづくり協会の仕事に携わるようになって、その奥の深さと、三春ってこんなに良い町なんだとはじめて知って驚かされた。住んでいる町の良さがなかなかわからない。三春の皆さん一人ひとりが、一致協力してここまで頑張つて来た成果だと感じた▼震災と原発事故によって、相双地区の人達が、三春だけになく、あつちこつちに離れ離れに住むようになり、先の見通しもないまま不自由で、不安な生活をしている。三春に歴史と伝統文化が生きて、新しいまちづくりの文化が創りだされているように、相双地域に暮らして来た人達にも、富岡町の、そして葛尾村の文化が息づいていたに違いない。今は、そのような自分たちの地元を誇りに、嫌な事を忘れて、前向きに生きていくことが大事だと思う▼お城山にあじさいの苗木を植樹した時、富岡町の人も参加した。いつまでになるか分らないが、今、一緒に暮らしている所は、同じまちである。原発事故の後遺症が収束して、また、故郷へ戻れるまで、同じ土地に住む者同士、みんな打ち解けて暮らしたい。三春に来た方々が「三春っていい町だ、いい人達だ!」、そして「三春に来て本当に良かった」と言われる町にしたい。

(柳沼)

コミュニティだより
「三春わが街」第六十一号
発行日 平成二十三年十月三十一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報部 会
三春町字大町一七八
(六二) 三九八八